



1月 5日 24時ごろ
1月 20日 23時ごろ
2月 5日 22時ごろ
2月 20日 21時ごろ
3月 5日 20時ごろ
3月 20日 19時ごろ



StellaNavigator10 ©1992-2018 Astro Arts Inc.

1~3月の星空

厳冬期を迎える1、2月は、一等星が7つも輝く賑やかな星空になります。オリオン座のリゲルとベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルクス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン。この7つの星で「冬のダイヤモンド」「冬の大三角」が結べます。それに加えて、南の地平線近くにはりゅうこつ座のカノープスが見えることもあります。中国で南極老人星とも呼ばれ、この星を見られると長生きできるといわれています。

3月になると、そろそろ春の星空に。北斗七星で有名なおおぐま座やしし座が東から昇ってくるようになります。このあたりには、私たちの天の川銀河の外側にある多くの系外銀河が見られます。地球から遠く離れ、光速でも何百万年もかかる遥か彼方からやって来るわずかな光を自分の目で確かめるのも、星空観察の楽しみ方の一つです。

そして、1月6日の部分日食。日本で見られるのは2016年以來3年ぶり。楽しい天文現象です。

おもな天文現象

「天文年鑑 2019」より抜粋

1月	4日	しぶんぎ座流星群極大
	6日	小寒 (太陽の黄経が 285°になる) 部分日食 (欠け始め 8:42 頃). 新月. 金星が西方最大離角
	14日	上弦
	20日	大寒 (太陽の黄経が 300°になる)
	21日	満月
	28日	下弦
2月	4日	立春 (太陽の黄経が 315°になる)
	5日	新月
	13日	上弦
	19日	雨水 (太陽の黄経が 330°になる)
	20日	満月
	26日	下弦
	27日	水星が東方最大離角
3月	6日	啓蟄 (太陽の黄経が 345°になる)
	7日	新月
	14日	上弦
	21日	春分 (太陽の黄経が 0°になる). 満月
	28日	下弦

部分日食観察の注意点

年明け早々、1月6日朝、に本全国で部分日食が見られます。楽しい天文現象ですが、日頃の星空観察とは異なり、失明の危険が伴うものとなりますので、注意が必要です。

- ①絶対に直接見ない。望遠鏡を使つての観察も厳禁。
- ②見るときは必ず観察グラスをつける。
- ③見るのは3分が上限。
- ④できれば、専門的知識のある人と一緒に見る。十分な安全確保をして、楽しい観察にしましょう!